

重点14 学習環境の改善

1 校舎の建設状況

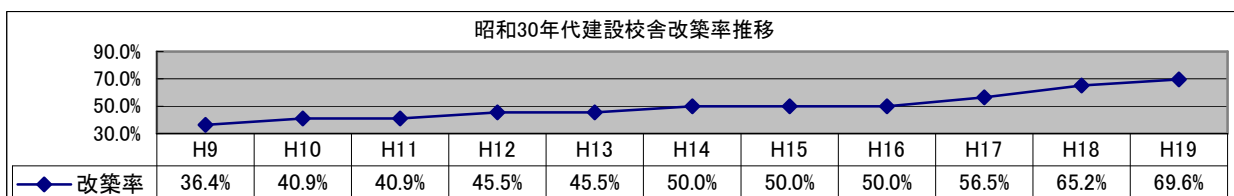
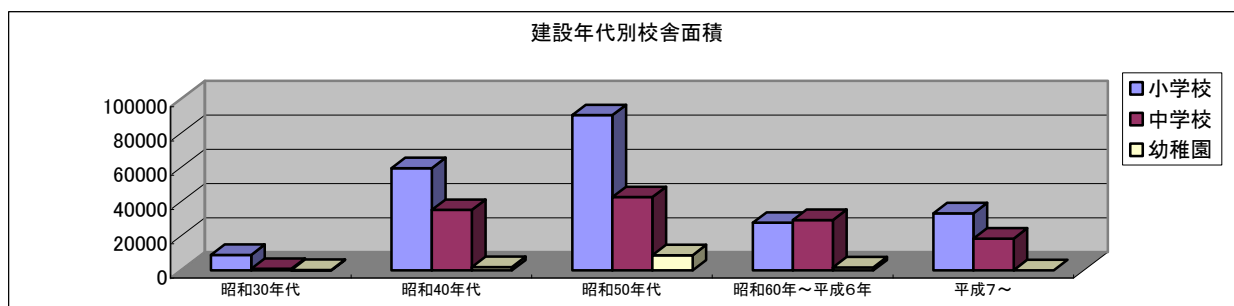
ねらい

学校施設は、児童・生徒にとっては生活時間の大部分を過ごす学習・生活の場所であることから、環境整備は心身の健全育成のために重要なことであり、健康的で安全な施設環境の確保に努めています。

現状

- 幼児・児童・生徒数の推移により必要に応じて増築したり、老朽化した校舎については、耐力的にも機能的にも必要なものは順次改築又は改修に努めています。

建設年	小学校		中学校		幼稚園		全体	
	校舎面積	割合	校舎面積	割合	園舎面積	割合	校舎面積	割合
昭和30年代	6,417	2.9%	932	0.7%	304	2.3%	7,653	2.1%
昭和40年代	59,302	26.7%	35,293	27.8%	1,962	15.1%	96,557	26.7%
昭和50年代	90,526	40.8%	42,766	33.7%	8,869	68.3%	142,161	39.3%
昭和60年～平成6年	27,828	12.5%	29,351	23.1%	1,742	13.4%	58,921	16.3%
平成7～	37,934	17.1%	18,623	14.7%	110	0.9%	56,667	15.7%
計	222,007	100.0%	126,965	100.0%	12,987	100.0%	361,959	100.0%



課題 (今後の方向)

- 厳しい財政状況の下、多額の費用を要する校舎の改築改修整備については、如何に円滑に効果率的効果的に推進できるかが重要課題となっており、計画的な保全整備により長寿命化も大切なことであり、ストックマネジメント調査により維持保全も含めて中長期整備計画を検討し、学校施設整備基金も運用しながら整備推進を行っていきます。